芝蘭会報
第181号
発行所
一般社団法人 芝蘭会
京都大学医学部同窓会
〒606-8315
京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-751-2713
FAX 075-752-4015
E-mail:info@shirankai.or.jp
http://www.shirankai.or.jp

主な内容

②京大病院臨床懇話会
芝蘭会臨時総会・評議会・理事会
第29回日本医学会総会2015関西
Scholarship募集のLetter
⑥校友会・KMS・FUNDだより
⑤支部だより 静岡・島根 書評
④支部だより 近畿北・愛知・和歌山
③支部だより 神戸
人事異動・会員訃報

盛大に完成を祝う

基礎医学記念講堂・医学部資料館

式典・祝賀会

2014年2月11日（火・祝）、京都大学医学研究科では「基礎医学記念講堂・医学部資料館」の完成を記念し、完成記念式典および祝賀会を開催しました。

テープカットする関係者ら

整備された記念講堂の内部

記念講堂の外観

あいさつする湊研究科長

医学部系統解剖講義室（旧解剖学講堂）は、1902年に建てられた木造平屋建て（寄棟造り桟瓦ぶき）の建物で、京都大学歴史的建造物に指定されています。近年は老朽化のため使用していませんでしたが、このたび同講義室の耐震および機能改修を行い、基礎医学記念講堂・医学部資料館としてリニューアルしました。

記念講堂で行われた完成記念式典には、医学研究科教授をはじめ約120名の関係者が出席しました。湊長博医学研究科長のあいさつ、井村裕夫元総長（先端医療振興財団理事長）の祝辞、萩原正敏副研究科長）、萩原正敏副研究科長の5名がテープカットを行い、完成を祝いました。

引き続き、芝蘭会館本館で完成記念祝賀会を行い、萩原副研究科長のあいさつ、菊池元研究科長のあいさつのののち、日合弘名誉教授に乾杯の発声をいただきました。

祝賀会の中では大野照文総合博物館長からお祝いのビデオメッセージがあり、参加者は和やかに歓談を楽しみ、三嶋理事・副学長の謝辞をもって、盛会のうちに閉会しました。

湊研究科長は、基礎医学記念講堂・医学部資料館へのご支援とご協力に感謝を述べるとともに、「京都大学医学部の長い歴史をふまえ、今日が新しい出発になれば」とあいさつしました。

今後は、記念講堂で講義やさまざまな行事、公開講座などを行うとともに、医学部資料館では、わが国の医学史上最重要貴重書の一つである『解体新書』や野口英世博士の博士論文など、1899年に京都帝国大学医科大学として創立されて以来、今日までの110余年の長きにわたり日本ひいては世界の医学・医療分野に多くの貢献を行ってきたことを示す歴史的資料の数々を、市民や内外の来客などに広く公開します。

一般公開は体制が整い次第、完全予約制で実施する予定です。

詳細は決まり次第、京都大学医学研究科ホームページに掲載します。

開会あいさつする三嶋病院長

特別講演する西村先生

応用などテーマ、熱心に

京大病院iPS細胞・再生医学研究会

学内外から110人が参加

1月22日（水）に、京大病院iPS細胞・再生医学研究会を芝蘭会館にて開催しました。同研究会は、当院におけるiPS細胞、ES細胞および体性幹細胞等を用いた再生医学研究の向上ならびに成果の普及を図り、ひいては医療の発展に貢献することを目的として平成21年11月に発足したものです。第9回目となる今回の研究会では、学内外から110名余りの参加がありました。

研究会では、三嶋理晃病院長の開会あいさつの後、庄司昌伸先生（武田薬品工業株式会社医薬研究本部基盤技術研究所主任研究員）より「ヒトiPS細胞の創薬ツールとしての応用 ―各種神経細胞への分化誘導―」について、吉川宗光先生（京大病院眼科）より「幹細胞からの網膜細胞分化および加齢黄斑変性病態解明への応用」について、渡邉健一郎先生（京大病院小児科講師）より「疾患特異的iPS細胞を用いた先天性好中球減少症の病態解析」について、森実飛鳥先生（京都大学iPS細胞研究所助教）より「iPS細胞由来ドパミン神経を用いた神経細胞の自家移植」について一般講演が行われました。

引き続き、西村栄美先生（東京医科歯科大学難治疾患研究所幹細胞医学分野教授）より「皮膚のステムセルエイジングと幹細胞制御」について特別講演が行われました。

この間、新しい免疫抑制剤の臨床応用、移植後の免疫寛容の発現、B型肝炎ウィルス既感染ドナーからの移植後に肝炎が発生することとそのメカニズムの解明、ABO不適合移植の病態解明とその対策、家族性アミロイドニューロパティ患者の肝臓を用いるドミノ肝移植、肝がんに対する移植適応の拡大などの臨床研究を通して移植免疫学と肝臓病学に新たなる道を開いた。田中氏は、わが国のみならず、9カ国で生体肝移植の導入に協力し、本法の普及と定着に努めている。

田中紘一 京大名誉教授に学士院賞

生体肝移植研究で功績

このたび、田中紘一京都大学名誉教授が第104回（平成26年）日本学士院賞を受賞した。日本学士院賞は、日本の学術賞としては最も権威ある賞で、学術上特に優れた研究業績をあげた研究者に授与される。

田中紘一京大名誉教授

受賞理由は、次の通り。「生体肝移植の基礎研究および臨床開発と展開に関する研究」において、脳死移植が困難なわが国で、肝臓の臓器特異性に着目して基礎研究を行い、生体肝移植がヒトに応用できる可能性を示し、その上で、生体肝移植を肝疾患末期患者の根本的治療として展開した。

手術手技の開発と周術期管理の工夫により、新生児から成人への適応を可能とし、移植肝の生着に影響する諸因子およびドナー安全性に関する諸因子を分析して課題を克服し、良好な成績を示した。

平成25年度の受章者 文化功労者

中井　久夫（昭34年卒）
神戸大学名誉教授
兵庫県こころのケアセンター参与

「京都大学医学部記念講堂・歴史資料館基金」募金の現状

平成26年3月31日（月）現在

・「三井住友銀行」利用のご寄附
305人（法人を含む）
54,660,000円
うち、50万円以上のご寄附は53人（法人を含む）

・「ゆうちょ銀行」利用のご寄附
245人
5,877,000円
うち、50万円以上のご寄附は2人

計550人（法人を含む）
60,537,000円

第29回日本医学会総会2015関西

【会頭】
井村 裕夫（京都大学名誉教授、元京都大学総長）
【主催機関】
（1）主　　催：日本医学会
（2）実行機関：第29回日本医学会総会2015関西
（3）主務機関：
京都大学医学部、京都府立医科大学、大阪大学医学部、
神戸大学医学部、滋賀医科大学、大阪市立大学医学部、
奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学、関西医科大学、
大阪医科大学、近畿大学医学部、兵庫医科大学、
国立循環器病研究センター、京都府医師会、大阪府医師会、
兵庫県医師会、滋賀県医師会、奈良県医師会、和歌山県医師会
【会期・会場】
（1）学術講演
会期：2015年4月11日（土）～4月13日（月）
会場：国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都、
京都大学百周年時計台記念館、
京都大学医学部芝蘭会館
（2）学術展示
会期：2015年4月10日（金）～4月13日（月）
会場：京都市勧業館「みやこめっせ」、国立京都国際会館
（3）公開展示
会期：2015年3月28日（土）～4月5日（日）
会場：神戸国際展示場
（4）医学史展
会期：2015年2月11日（水・祝）～4月12日（日）
会場：京都大学総合博物館
【URL】
http://isoukai2015.jp/

生殖器医療の現状と展望探る

京大病院臨床懇話会　99人が参加

平成26年2月23日（日）、「平成25年度京大病院臨床懇話会」が百周年時計台記念館で開催され、学内外から99名の参加がありました。同懇話会は、地域医療との連携を推進するため、地域で活躍されている医師等の先生と京大病院診療科長等との意見交換および京大病院からの情報提供の場として開催しているものであり、今回で17回目となります。

あいさつする三嶋病院長

出席者代表あいさつする真鍋芝蘭会理事（医聖会八幡中央病院理事長）

当日は、三嶋理晃病院長および芝蘭会理事の医聖会八幡中央病院・真鍋克次郎理事長のあいさつがあり、続いて、平家俊男教授（iPS細胞臨床開発部長／小児科長）から「iPS細胞臨床開発部事業の進捗状況について」として京大病院報告があり、iPS細胞作製の現状について報告がありました。

その後「京大病院における生殖器医療の現状と展望」という全体テーマにより、坂口循環器科内科医院・坂口佳司院長の座長のもと、馬場長講師（産科婦人科）から「子宮がん・卵巣がん治療の最新情報」、堀江昭史助教（産科婦人科）から「少子化時代の妊孕能温存と不妊治療」について続いて、日本バプテスト病院・北堅吉病院長の座長のもと、松井喜之助教（泌尿器科）から「性機能温存を目指した神経移植併用ロボット支援前立腺全摘術」について、根来宏光助教（泌尿器科）から「がん化学療法前の精子保存の現状」について、それぞれ講演がありました。

講演後に、京大病院に関しての意見交換が行われ、まいこネット（京都府医師会等の各種医療関連機関、行政と連携した地域医療連携基盤サービス）の利用等について質疑応答が行われるなど、盛況のうちに終了しました。

また、引き続き開催された懇親会において、京大病院診療科長と出席いただいた医療機関の先生方との意見交換が行われ、大変有意義なものとなりました。

今年度正会員会費改訂を承認

芝蘭会 臨時総会・評議員会・理事会　「医学会総会関西」に呼応

平成26年3月15日（土）、芝蘭会館別館において芝蘭会臨時総会・評議員会および理事会が開催された。

議案は①「第29回日本医学会総会2015関西」開催に係る臨時総会開催のための芝蘭会正会員会費の改定について②一般社団法人芝蘭会会費規則の一部改正（案）について③平成26年度事業計画および収支予算について④第3回芝蘭会代議員選挙の実施について⑤芝蘭会会員名簿の作成について⑥その他についての6件で、議案①については、平成27年4月11日（土）から3日間にわたって開催される「第29回日本医学会総会2015関西」に呼応して、平成27年4月11日（土）開催予定の芝蘭会臨時総会開催費用捻出のために芝蘭会正会員（医学部学生を除く）の平成26年度会費を7000円に改定することについての説明があり、異議なく承認された。

議案を審議する芝蘭会臨時総会・評議員会・理事会

議案②については、一般社団法人芝蘭会会費規則の一部改正（案）について説明があり、審議の後、平成26年度会費を7000円とすることで、異議なく承認された。

議案③については、平成26年度事業計画および収支予算について説明があり、審議の後、医学部学生の海外研修助成の充実など、異議なく承認された。

議案④については、第3回芝蘭会代議員選挙の実施について、スケジュールなどの説明があり、審議の後、異議なく承認された。

議案⑤については、平成26年11月末刊行予定の芝蘭会会員名簿（第71回）の作成について説明が行われ、審議の後、異議なく承認された。

議案⑥については、2件あり、1件目は、湊会長より平成25年度の決算書類ならびに事業報告を審議するための総会を平成26年6月21日（土）に開催することが諮られ、異議なく承認された。2件目は、臨時総会、評議員会、理事会の議事録の署名人について、湊会長より説明があり、審議の後、異議なく承認された。

議案の審議終了後、報告事項が3件あり、1件目は、湊会長から平成26年2月11日（火・祝）に行われた基礎医学記念講堂・医学部資料館完成記念式典および祝賀会についての報告があり、了承された。2件目は、山田事務局長より京大病院入院患者の家族の芝蘭会館別館の客室使用状況について報告があり、了承された。3件目は、湊会長から「京都大学医学部教育研究支援基金（KMS-FUND）」の寄附申込状況についての報告があり、了承された。

平成26年度芝蘭会費の金額改定についてのお願い

会員各位におかれましては、日頃から芝蘭会の活動と運営に対してご支援とご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

芝蘭会では、平成27年4月11日から3日間にわたって開催されます「第29回日本医学会総会2015関西」に呼応して、平成27年4月11日（土）に1000人の芝蘭会員が参集する臨時総会の開催を予定しています。この臨時総会を開催するにつきまして、多額の費用が必要でございますので、その費用を捻出するため、下記のとおり正会員の年会費を平成26年度に限り、**5,000円から7,000円**に改定することが、平成26年3月15日開催の臨時総会、評議員会、理事会において承認されました。

会員各位におかれましては、今回の会費値上げにご理解をいただくとともに、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

American College of Surgeons（ACS）から、Scholarship募集のLetterが参りましたので、案内いたします。
30（35）～45（50）歳の外科系医師が対象ですので奮って応募してください。ご不明の点は芝蘭会事務局（山田）まで。

AMERICAN COLLEGE OF SURGEONS
Inspiring Quality:
Highest Standards, Better Outcomes
100+years

Chicago Headquarters:
633 N. Saint Clair St.
Chicago, IL 60611-3211
Voice: 312-202-5000
Fax: 312-202-5001
E-mail: postmaster@facs.org
Washington Office:
20 F Street, NW Suite 1000
Washington, DC 20001
Voice: 202-337-2701
Fax: 202-337-4271
E-mail: ahp@facs.org
www.facs.org

March 2014

Esteemed International Fellow of the American College of Surgeons:

I am very pleased to provide you with links to the requirements for the following international scholarship programs with upcoming application deadlines. I would be grateful if you would share them with eligible surgeons in your institution.

International Surgical Education requirements:
http://www.facs.org/memberservices/issurged.html
Applications for 2014 due by 1 May 2014

International Guest Scholarship requirements:
http://www.facs.org/memberservices/igs.html
Applications for 2015 due by 1 July 2014

Community Surgeons Travel Award requirements:
http://www.facs.org/memberservices/community-travel.html
Applications for 2015 due by 1 July 2014

Questions regarding these programs and their requirements may be directed to me at kearly@facs.org.

Thank you in advance for helping us publicize these outstanding opportunities for talented young international surgeons.

Sincerely yours,
Kate Early
Kate Early
International Liaison Section & Scholarships Section
American College of Surgeons

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金（KMS・FUND）だより

事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学部学生会館内
Tel.075-761-2467
Fax.075-752-1528
Mail-Address:
kyoto-kms-fund@office.med.kyoto-u.ac.jp

立ち上げ期から充実期へ

人間育成 自主・自立性を重視

KMS・FUND委員長
発達小児科学教授
平家 俊男

第1回の委員会において、これまでの歩みを踏まえ、現状把握、今後に向けた課題・その取り組みに関して、包括的な議論を積み重ねました。

平成25年においては、本基金に基づく整備事業の大きな目玉であり、平成22年11月4日に竣工した学生会館について、関連事業を継続してきました。その成果の一つとして、学生会館で未完成であった2階トイレ、4階トイレ、4階予備室、4階倉庫の整備が完了し、これで学生会館すべての居室が使用可能な状態となりました。重ねて、平成22年11月4日の学生会館竣工後に開催された臨時KMS・FUND委員会で決定された学生会館周辺の植栽とそれに係る環境整備につきましても、新たな寄附依頼に基づく企業からの寄附を原資に、これも完了いたしました。これにより、学生会館の基本的事業が整備されたことになります。今後は、この学生会館の継続的使用に必要な手当とともに、既存の事業のさらなる充実、そして時勢を見据えた事業の立ち上げが、検討課題となります。立ち上げ期から充実期への新しいステップへと、新しい踏み出しの時期へと突入いたしました。

その一歩として、学生会館の継続的使用を担保するために、会館内の環境維持・管理の側面から、既に課題が俎上に載っています。良好な学習・活動環境を維持するためには、短期的には定期的な清掃（自助努力とともに清掃委託も視野に入れる）とともに、中期的には時期を得た補修計画の設定が必要です。皆様からの貴重なご寄附により完成した学生会館を、末永く、良好な環境で使用できるよう、計画を立案し、有効活用を目指します。

本基金のもう一つの重要なミッションが、教育・研究活動の支援です。平成20年度から開始された医学部若手研究者優秀論文賞（KMYIA）の運用に関しまして、その充実度を深化させるために、平成25年度に、いくつかの改正を盛り込みました。主な改正点として、採択者数を絞り、副賞を「賞金20万円」としKMYIAの価値を高めることにより、さらなる充実化を図ったことです。また、学生の臨床実習において、旧来の見学型から参加型への転換が必須となっています。それを担保する教育基盤の整備も、視野に入れるべき事項となってきています。さらに、今後の時勢を見据えた事業としては、学生・大学院生支援事業として、奨学支援、課外活動支援、国際交流支援、留学支援なども挙げられます。

京都大学医学部の使命として、①次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成②病気など医学事象の背後にあるものを見抜き、自分の頭で考え、新たな知を創出できる人間、また、広く社会と人間行動を理解し病める人の感情を洞察できる人間、社会全体の健康を目指し高い倫理観を持って行動する人間の育成③人類全てに発信できる国際性豊かな人間の育成があります。特に今重要視されていることは、「自主性、自立性」です。京都大学医学部に入学してくる学生は、元来、優秀です。一方で、入学するまでの学習環境に過度に順応し、その持ち味が十分に発揮できていない学生がいることも事実です。「京都大学医学部入学までの人」ではなく、「京都大学医学部入学からの人」になるよう、世界レベルでの試練を受け、京都大学医学部が目指す人材を輩出できるよう、KMS・FUNDもその一翼を担っていきたいと考えています。

KMS・FUNDを支えるご寄附に関しましては、最初の目標としての3億円に達することができました。これも、皆様方からの温かいご支援の賜物と、この場をお借りして、御礼申し上げます。一方で、まだまだ取り組むべき課題は山積しております。当初の目標の10億円を目指すとともに、私たちの立つ位置をもう一度見据えて、課題に対して練り上げて実行する第2ステップに突入したと認識いたしております。

あらためて、この紙面をお借りし、芝蘭会の先生方には、これまでのご支援に際して御礼申し上げるとともに、さらなるご支援をお願いさせていただく次第です。

和やか盛大に卒業祝賀会

平成25年度京都大学卒業式が3月25日（火）京都市勧業館みやこめっせで挙行された後、医学部学士号授与式が芝蘭会館・稲盛ホールで行われた。その後、山内ホールで校友会主催の「卒業祝賀会」が開催された。医学研究科長・医学部長湊長博教授をはじめ教授14人、卒業生110人、父母など関係者102人、計226人を数える参加者のもと盛大な祝賀会となった。

あいさつする土井赳校友会会長

湊医学部長から祝辞と、この春改修を終え「基礎医学記念講堂・医学部資料館」としてオープンした旧解剖学教室講堂について説明があった。

基礎医学記念講堂の建物は明治35年に京都帝国大学の解剖学教室講堂として竣工されたもので、教室内部は歴史的建造物の名にふさわしい階段教室の形状であるが、ここ20年ほどは老朽化のため使われないままになっていた。耐震の問題から取り壊しの危機に直面し、芝蘭会はじめ多くの皆様からのご支援により「基礎医学記念講堂・医学部資料館」としてオープンした。内部は機能改修して再び講堂に、また階段教室を取り囲むようにあった解剖準備室部分が医学部資料館になった。

医学部資料館に展示されている資料は、わが国の医学史上最重要資料、大学の歴史や先人たちの足跡を知る貴重かつ膨大な資料の一部が展示されている。その中には、『解体新書』、世界的に有名な細菌学者、野口英世博士の学位論文、その他、貴重な資料が展示されていることも紹介された。

その後、京都大学医学部教育研究支援基金（KMS・FUND）委員会の平家委員長から、基金の説明が行われた。校友会会長土井赳氏からあいさつ、乾杯の発声の後、出席教授からの祝辞や卒業生の謝辞、京都大学医学部音楽部の皆さんによる室内楽が演奏されるなど、和やかで盛大な卒業祝賀会となった。

祝辞を述べる出席教授ら

記念撮影のため勢ぞろいした卒業生ら

「日々精進を重ねます」

卒業生代表が謝辞

卒業生を代表して謝辞を述べる大林君

本日は私たちのために、このような盛大な祝賀会を開催していただき、誠にありがとうございます。また、ご多忙の折、ご出席いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。先程、先生方よりお祝いのお言葉をいただき、うれしく思うと同時に後ろ髪を引かれる思いがいたします。

振り返ってみると、6年間は瞬く間に過ぎ去り、期待と希望を胸に京都大学の門をくぐったことが昨日のことのように思い出されます。京都大学らしいユニークな一般教養の講義の数々、解剖実習に始まり、医学の膨大な情報量に圧倒されつつもその興味深さに触れた専門科目、全国各地の病院へと散らばり、実際の患者さんに接する中で医師となる覚悟を新たにした臨床実習、そして最後の関門である医師国家試験。6年間を通じて、私たちは実に多くの知識を授かってきました。こうした学習によって修得した知識が、医師としての基盤であることは論を待ちません。

しかし、私たちが京都大学で得たものはこれだけではありません。私は医学部ボート部、MESS、全学の大道芸サークル Juggling Donuts と三つの団体に所属しておりましたが、これらの活動において、あるいは部活やサークルの枠を超えて育んだ「人との縁」は、大変貴重なものであったと身にしみて感じております。勉学、部活動、研究やアルバイトと、興味の対象こそ異なれ、京都大学で出会った友人たちは皆そろって魅力的かつ優秀でした。自らの目標に向かって邁進していく姿には、私自身ももっと頑張らねばと大いに刺激を受けたものです。また「自由の学風」といわれる京都大学ですが、その自由さとは決して無秩序で奔放なものではありません。自主自律の精神のもと、自ら課題を見つけ、それを解決すべく努力すれば、先生方は惜しみなく協力してくださる、そのような恵まれた環境においてこそ、切磋琢磨しながら互いに成長することが出来たのだと実感しております。

さらに、四季折々の表情を見せる、歴史と伝統ある古都・京都は、学生生活を送る上で最高の環境でした。

私たち卒業生の進む道は十人十色ではありますが、その誰もが自身の道を極め、世界を舞台に活躍していくものと確信しております。京都大学医学部の誇りを胸に、その名に恥じぬ医師・研究者となるべく、医学・医療の発展を目指して日々精進を重ねて参りますので、先生方におかれましては、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

また、このような充実した学生生活を支援してくださった職員の方々、そして何よりもいつも温かく見守ってくれた家族に心より感謝いたします。最後になりますが、京都大学医学部のますますの発展を祈念し、卒業生代表のあいさつとさせていただきます。

委員長	発達小児科学 教授	平家　俊男
委員	臨床免疫学 教授	三森　経世
	医学教育推進センター 特定教授	陣上　久人
	法医学 教授	玉木　敬二
	病理診断学 教授	羽賀　博典
	医療経済学 教授	今中　雄一
	人間健康科学・臨床認知神経科学 教授	十一　元三
	芝蘭会 事務局長	山田　均
	医学研究科 事務長	加藤　正昭
顧問	メディカル イノベーション センター 特任教授	中尾　一和

昨今、医学・医療を取り巻く環境が複雑さを増し、医学が扱う対象は個々の疾病や患者にとどまらず、少子高齢化などの社会環境の変化、医療制度、国際化（ボーダレス化）、環境問題などと密接に関連するようになってきている。そうした中で、医師は以前にも増して広い視野と豊かな人間力が求められる。このような複雑な問題を医師の立場から包括的に論じた書は数少ないが、大高道也先生（京大医学部昭和47年卒）は、大著『連帯の医学』の中で、自らの臨床医、基礎医学研究者、行政官としての豊富な経験をもとに、医学・医療のあるべき姿を幅広く論じ、明日の医学・医療と未来の健康社会を目指すための優れた指針を示された。

外科医、病理学者、予防医学研究者を経て厚生省（現 厚生労働省）に入省し、結核や生活習慣病の予防対策をはじめとして、以後、保健・医療・福祉から環境にわたるまで、それぞれに深い考察がなされている。評者が知っているのは、高血圧自然発症ラットを相手に循環器疾患の発症メカニズム解明に奮闘されていた若き日の大高先生であるが、本書を読むと、先生はその後もさまざまな課題に全力で取り組み、それぞれの場で卓越した業績と成果を挙げてこられたことが分かる。

各章には著者の信念と哲学がにじみ出ており読者を感動させるが、全体を通じて流れているのは、大高先生の医学・医療に対する飽くなき情熱と探究心、人間、特に弱者に対する優しさ、未来の社会に対する使命と希望である。特に感銘を受けるのは著者の行動力であり、国内外の多くの人々と「連帯」し、常に現場にあって積極的に社会実践を行ってこられた姿勢には学ぶべきところが多い。その原点は、大高先生が京大医学部学生であった1967年に郷里大津市に設立した「大津医学生会」の活動にあると言ってよいであろう。大高先生は「大津医学生会」のリーダーとして医学生間の連帯の推進、研修、国際親善、障害児支援などを積極的に行い、若い医学生に多大の影響を与えてこられた。情熱さえあれば、医師としてこれほど多くの仕事を成し遂げ、充実した豊かな人生を送れるということを示された『連帯の医学』は、若い医師、医学生の優れた指針となるであろう。

本書に挿入されたいくつかの詩と挿絵から、大高先生が優れた詩人、画家でもあることを知ることができた。読者はぜひこれらの作品も楽しんでいただきたい。

滋賀医科大学長・塩田浩平（昭和46年卒）

書評

大高道也『連帯の医学』

京都大学学術出版会、2013年

さまざまな場での積極的社会実践に感銘

支部だより

血液内科の役割学ぶ

思い出話に花を咲かせた静岡支部総会出席者

【静岡】 平成25年10月19日（土）、静岡グランドホテル中島屋にて芝蘭会静岡支部総会が開催されました。まず、芝蘭会静岡支部長で静岡市立静岡病院院長の島本光臣先生より、芝蘭会総会、理事会、評議員会の報告が行われました。次に会計報告が行われ、異議なく可決されました。

続いて、京都大学大学院医学研究科内科学講座血液・腫瘍内科学教授の高折晃史先生が、京都大学医学研究科および医学部の近況報告を行われました。内容は臨床実習改革や入試制度改革、改装された記念講堂や現在建設中のⅠ期病棟、Ⅱ期病棟の概要など多岐にわたりました。近年は、産官学の連携が重要視されているそうで、京都大学にも先端医療機器開発・臨床研究センター、メディカルイノベーションセンターなどが竣工しています。私もこのような恵まれた環境で学ぶことができうれしく思います。

続けて高折先生が「血液内科診療の現状と未来―京都大学血液・腫瘍内科の役割と方向性」という演題で講演されました。現在、血液内科の専門医は数が少なく苦しい状況だそうです。京都大学を抱える京都こそ10万人当たりの専門医数は全国1位であるものの、京大関連病院でも専門医不足は顕著であるとのことです。高折先生は、日本の血液内科をリードしてきた京都大学が最高水準の医療を提供し、活発な人事交流を通じて地域医療に貢献していかなければならないと話されていました。京都大学血液・腫瘍内科の研究面においては、研究室の統合や協力を通して伝統的な疾患研究を拡充したり、基礎ラボとの共同研究を推進したりしているそうです。ATLやリンパ腫の研究、iPS細胞を用いたMDS研究やCTL再生なども進めておられるとのことでした。特に高折先生は、HIVの研究で内因性免疫として働くAPOBEC3ファミリータンパクに注目されていたところ、核酸をCからUに換えるこの酵素のうち核内にあるものが発がんに関わっているであろうことを発見されました。また臨床面では、専門疾患の明確化や、関連病院を含めた多施設共同臨床研究を進めておられるそうで、ここでも活発な人事交流を強調されておられました。最後に、京都大学血液・腫瘍内科は関連病院とともに日本の血液内科をリードし地域医療に貢献していかなければならないと話されていました。

講演の後、懇親会が開かれました。会は終始和やかな雰囲気で進みました。今回の静岡支部総会には同期の先生同士も多かったようで、思い出話に花を咲かせる先生方もいらっしゃいました。先生方は私たち学生にも優しく声をかけてくださり、熱いお話を伺うことができ、また多くの激励の言葉も頂戴いたしました。そして宴もたけなわとなり、惜しまれながらもお開きとなりました。

最後になりましたが、素晴らしい会に参加させていただいたことに深く感謝の意を申し上げ、総会の報告を終わらせていただきます。

（文責：2回生　高屋龍生）

放射線治療最前線わかりやすく

【島根】 平成25年11月16日（土）、ニューウェルシティ出雲にて、平成25年度芝蘭会島根支部総会が行われました。

総会に続いて京都大学大学院医学研究科放射線腫瘍学画像応用治療学分野教授の平岡真寛先生が、医学部の現状報告をされました。大学で現在進行中の医学研究や教育の各プロジェクトの紹介や、新病棟の建設計画や完成予定図の説明、そして記念講堂と歴史資料館の紹介などがありました。

現状報告の後には、同じく平岡先生による特別講演が行われました。「放射線治療最前線」という題名の講演で、放射線治療が三次元から四次元に変化しているという内容でした。放射線治療を受ける人は急増しており、日本では20年前から比べると約2倍になっていて、放射線治療は二次元的な治療から三次元的に変化してきたとのことでした。最先端の放射線治療には定位放射線治療と強度変調放射線治療の2種類があり、定位放射線治療は早期のがんや小さめのがんの治療に使われ、強度変調放射線治療は大きめのがんやいびつな形のがん、そして放射線感知度の高い臓器が隣接するがんの治療に使われます。定位放射線治療は主に肺がんや肝臓がんの治療に使われ、高い局所防御率と治療が短期間であるという利点がある一方、リンパ節転移には適応外であり、また正常臓器への影響の有無が分かっていないという欠点も持ち合わせており、強度変調放射線治療は前立腺がんの治療に使われ、7方向から線量を調節できるという利点をもっているとのことでした。2種類の放射線治療については、核酸をCからUに換えるこの酵素のうち核内にあるものが発がんに関わっているであろうことを発見されました。また臨床面では、専門疾患の明確化や、関連病院を含めた多施設共同臨床研究を進めておられるそうで、ここでも活発な人事交流を強調されておられました。最後に、京都大学血液・腫瘍内科は関連病院とともに日本の血液内科をリードし地域医療に貢献していかなければならないと話されていました。

講演の後、懇親会が開かれました。会は終始和やかな雰囲気で進みました。今回の静岡支部総会には同期の先生同士も多かったようで、思い出話に花を咲かせる先生方もいらっしゃいました。先生方は私たち学生にも優しく声をかけてくださり、熱いお話を伺うことができ、また多くの激励の言葉も頂戴いたしました。そして宴もたけなわとなり、惜しまれながらもお開きとなりました。

最後になりましたが、素晴らしい会に参加させていただいたことに深く感謝の意を申し上げ、総会の報告を終わらせていただきます。

（文責：2回生　高屋龍生）

和やかな雰囲気の島根支部総会出席者

芝蘭会会員名簿（71回・2014年版）の刊行について

会員登録の確認調査（7月送付予定）にご協力ください

拝啓　会員の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本年は芝蘭会会員名簿の刊行の年にあたり、平成26年11月末の刊行に向けて編集作業を進めております。つきましては、今回、会員の皆様のところへ「会員名簿調査確認書」（郵便はがき）および、会員名簿購入申込用紙等をお送りさせていただきます（7月送付予定）。

会員名簿は、芝蘭会活動を活発化し、また、会員相互の親睦と交流を深めるためには、必要不可欠のものであり、名簿掲載内容の充実が求められます。それには、会員の皆様のご支援、ご協力がぜひとも必要であります。

また、芝蘭会会員名簿の販売は芝蘭会員、賛助会員および広告掲載企業に限らせていただいております。会員間の交流を図るためにも余程のご事情がない限り名簿掲載にご協力いただき、前記「会員名簿調査確認書」を、必ず芝蘭会事務局へご返送くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

平成26年4月

一般社団法人　芝蘭会
会長　湊　長博

若手医師の教育テーマに考える

盛り上がった近畿北支部総会・懇話会

【近畿北】 平成25年度芝蘭会近畿北支部総会が、平成25年12月13日（金）に公益財団法人丹後中央病院2階のふたばホールにて開催されました。

総会では、まずは芝蘭会近畿北支部の支部長である西島直城先生のユーモアあふれるあいさつがあり、会場全体が笑いに包まれました。そしてその直後に、座長である丹後中央病院の副院長藤田眞一先生の司会進行のもと、京都大学大学院医学研究科の外科学肝胆膵移植外科分野の教授である、上本伸二先生による特別講演が催されました。以下、講演の内容を紹介させていただきます。

「外科医の労働の現状とその教育・肝移植の動向」（上本伸二先生）

本特別講義では①外科医の動向②京大病院での初期研修状況③京大外科と関連病院の関係④肝移植の現状の四つのテーマについて話されました。①に関しては、日本外科学会員数が大規模であることや、外科医を対象に行われたアンケートからわかる問題点などについてでした。②に関しては、初期研修後に放射線科や皮膚科、精神科を選ぶ医師が多いこと、研修後も京大関連病院にとどまる医師が多いのが京大の強みだということ、などについて話されました。③に関しては、全国的に大学院離れが進む中、若手外科医の教育を第一目的だということを念頭に、後期研修指定病院と関連病院、京都大学一体となって、多角的に若手医師をサポートしていこう、ということでした。④に関しては、肝移植がどのような歴史を経てきて、これからどのような制度をとってゆくべきか、について哲学的な視点も取り入れつつ話されました。

続いて、プラザホテル吉翠苑に移動し、瀬古敬先生のご発声により、懇親会が催されました。当日が金曜日だったということもあり、参加された先生の数はそれほど多くはありませんでしたが、大いに盛り上がりました。懇親会の途中には、上本先生による、医学研究科・医学部の現状について話されました。医学研究科・医学部・附属病院の運営体制や、新任の教授の紹介、教育改革の取り組みや、新しく建てられた研究センターおよび学生会館の紹介がされました。瞬く間に時間は過ぎ、こうして盛り上がった懇親会も、曲淵達雄先生の中締めのあいさつによってお開きとなりました。

入学して1年も経たない私ですが、今回このような素晴らしい講演会と懇親会に参加させていただき、深く感謝申し上げ、今後の芝蘭会近畿北支部の発展とより多くの芝蘭会会員の先生方の参加を願って、芝蘭会近畿北支部総会の記事とさせていただきます。

（文責：1回生　梅本大地）

COPD、低い認知度に警鐘

【愛知】 平成26年1月18日（土）、名古屋観光ホテルにて、平成25年度芝蘭会愛知支部総会が行われました。総会はペガサスの間で行われました。

総会に続いて京都大学医学部附属病院病院長の三嶋理晃先生による、「京大病院の現状」および「COPD（慢性閉塞性疾患）の最近の話題」と題された講演が催されました。以下、講演の内容を紹介させていただきます。

・「京大病院の現状」

この演題の導入として、京都大学医学部附属病院に備わる現在の病床数、診療科数、職員数などの基本的な情報が述べられました。それに加えて、過去5年間の基本診療活動指標の変化について言及されました。目立った傾向としては、外来患者数が増加しており、この傾向が続くと医師の負担が増してしまうので後方支援の病院を考慮した上の対策が必要とのことです。また、収支については、平成20～22年度においては赤字であったものの、23年度以降黒字に転じており、その資金は医療器械や支援者の充実に充てたいとの意向が述べられました。

近況を報告し合った愛知支部総会出席者

ここでは、外科手術などで用いられる新たなロボットシステムの登用や、病棟整備のコンセプトが視野に入れられているとのことです。また、平成26年初めの患者が22・3万人いますが、診断されておらず自覚のない患者も含めると500万人を超えると推定されています。この病気の恐ろしい点は、最近の動向として、iPS細胞医療開発部の創設が挙げられました。その主な目的として、病気の本質を見きわめた上での新薬の精製、移植手術の発展の二つが掲げられました。

・「COPD（慢性閉塞性疾患）の最近の話題」

COPDとは、有毒ガスや微粒子の吸入、特に喫煙などがきっかけになり、肺胞の破壊や気道炎症が起き、息切れが生じて呼吸がスムーズに行えなくなる病気です。多くの場合咳や痰などの症状も見られます。現在日本にはCOPDと診断された患者が22・3万人いますが、診断されておらず自覚のない患者も含めると500万人を超えると推定されています。この病気の恐ろしい点は、これだけ多くの患者が存在しているにも関わらずその知名度が低いこと、またゆっくり進行するので重症化するまで病院に行かない患者が多いことです。発病の原因には、先ほど述べた有毒ガスの吸入の他に、室内有機燃料煙の吸入もあると分かっており、それを知らないまま生活様式上吸入してしまっている中央アジアなどの人々には警鐘をならす必要があります。また、多くはありませんが遺伝などによる体質が原因となることもあります。近年患者数が増加しているのでその知名度を向上させるために、国民健康づくり運動プランにてCOPDはがん・糖尿病に並ぶ主要取り組み疾患に指定されました。

COPDの進行度を計る重要な指標に、LAA%（肺気腫領域面積の肺野面積比）があります。肺気腫が重症でLAA%が高いと傾向として生命予後は悪くなってきます。この病気は、患者の状態に合わせた治療法を選択することが大切で、安定期COPDの管理法としてインフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンが用いられます。特にインフルエンザワクチンは死亡率を50%低下させるといったデータもでており、全患者に勧められています。また、新たな気管支拡張薬も死亡率を低下させます。

喫煙とCOPDの関係についても指摘がありました。女性や若年層の喫煙は特に発症のリスクが高く、また受動喫煙でも発症の可能性があるという認識を広めるべきだということです。COPDを発症しているのとそうでないのとでは、高血圧や糖尿病などのさまざまな疾患を併発する率が異なるとのデータも出ています。したがって肺以外の内科疾患患者に潜むCOPD患者を早期に発見し、迅速に対応することが重要になってきます。

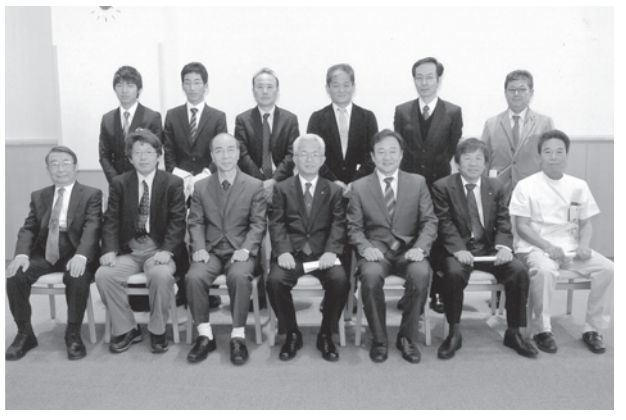
講演の後は同会場にて懇親会が行われました。懇親会は終始和やかな雰囲気で進行し、先生方は互いに近況を報告し合っていました。われわれ雑誌部員にも気さくに声をかけてくださり、大学生活について伝えることもできました。そして、宴もたけなわとなり、会は惜しまれながらも解散となりました。

最後になりましたが、京都大学の大先輩の貴重なお話をたくさん伺うことができたこの機会を与えてくださったことに非常に感謝申し上げます。今後の芝蘭会愛知支部の発展を願って、芝蘭会愛知支部総会の記事とさせていただきます。

（文責：1回生　朴剛史）

医学教育の在り方を考察

【和歌山】 平成26年2月9日（日）、日本赤十字和歌山医療センターにて芝蘭会和歌山支部総会が行われました。総会に先立って京都大学大学院医学研究科・医学教育推進センター長である小西靖彦先生から「最近の医学教育の動向」と題して医学教育、実習の在り方についてお話がありました。百井亨和歌山医療センター院長から「医学部定員はここ数年で1500人ほど増加しており、病院側としても医学教育は非常に関心があることだ」とのあいさつを皮切りに講演は始まりました。


有意義な論議も行われた和歌山支部総会

アメリカで臨床研修を行うためには、日本の医学部を卒業したうえでUSMLEの各試験を合格し、ECFMG certificateを得る必要があります。しかしECFMGが2023年度からWFME、LCME、もしくは相当の基準に認証された医学部出身者にしか受験資格を与えないというプレスリリースが出されました。2023年ということは2017年入学の学生から適用されるということで迅速に対応しなければいけません。WFME、LCMEの認定を受けるにあたって総学習時間の1／3以上を臨床教育に充てる必要があるという基準から、来年度から外病院での卒前の実習（ポリクリ）の期間は74週へと変更になったそうです。そして質という観点からアウトカム基盤型教育（outcome based education）も必要であるとおっしゃっていました。そして単にECFMG受験資格というよりグローバル化に対応した医学教育が必要になってきた、世界・世間の風向きがそういう方向に向いているということでした。

では現在どのように評価されているのでしょう？高校卒業から臨床医になるまでに入学試験・CBT・OSCE・医師国家試験を受けます。そして医師になってから臨床研修修了認定、専門医認定とさまざまな試験、認定を受けなくてはなりません。こういったさまざまな試験を通して評価され認定や免許を受けます。すると医学教育という観点からどの時点でECFMGの求める能力、技能を満たしていなければいけないのか、どういう教育プログラムを組むべきかという話になります。たとえば、チームワーク力は入学時点で評価されているのか、そもそも入学時点で必須なのかということです。こういった教育の枠組みが確立していないということで小西教授は日々医学教育の向上、改善に取り組んでいるそうです。

講演終了後たくさんの質疑応答が行われました。ポリクリではどういったことが学生のニーズにあっているのか、京大病院ではどういったことを教えてもらっているのかなど、非常に有意義な議論が行われました。医学教育に対する熱意を感じこんな恵まれた環境で学べる喜びを実感しました。

その後、本館12階職員食堂に場所を移して記念写真撮影、芝蘭会和歌山支部総会、懇親会が開かれました。懇親会ではそれぞれの先生の学生時代のお話をされ今との違いに大いに盛り上がりました。そして国の方針として総合診療医が求められているなど非常にためになる話を聞くことができました。懇親会は終始和やかな雰囲気で進み、最後に小西先生から学生への激励の言葉で締めくくり惜しまれながらもお開きとなりました。

末筆とはなりましたが、素晴らしい会にお招きくださり貴重な体験をさせていただいたことに感謝の意を申し上げ総会の報告を終わらせていただきます。

（文責：3回生　小杉大輔）

支部だより

支部だより

リーダー育成の苦労知る

多数の出席者でにぎわった神戸支部総会・懇親会

【神戸】平成26年2月11日（火・祝）、芝蘭会神戸支部学術講演会および総会が催されました。学術講演会は兵庫県医師会館にて、総会は第一楼にて開かれました。

講演会では、初めに神鋼病院脳神経外科部長の上野泰先生による進行のもと、京都大学大学院医学研究科脳神経外科教授の宮本享先生が「明日のリーダーを育む～京都大学脳神経外科の挑戦～」という演題で講演されました。2004年に始まった臨床研修制度によって、京都大学脳神経外科への入局者は減少し、大手関連病院の半独立化と中小の疲弊が進んでいた2009年に宮本先生は教授に就任されました。就任されてすぐに先生は構造改革に着手されました。課題は大学一極中心主義であったことと、教授に決定権が集中していたことであったそうです。そこで、京都大学伝統のリベラリズムに基づいた自由競争を導入されました。組織の立て直しに続き、マンパワーの底上げのために専門領域ローテート研修を開始されるなどして、戦略的人材育成にも尽力されました。また、関連病院の機能面、機器面での標準化および層別化も図られました。そうして入局者数は回復したそうです。非常に敏腕な先生なのだと感服いたしました。

続いて西神戸医療センター整形外科部長の藤原正利先生による進行のもと、京都大学再生医科学研究所・組織再生応用分野教授、京都大学iPS細胞研究所・増殖分化機構研究部門教授の戸口田淳也先生が「iPS細胞を活用した難病の病態解明と創薬」という演題で講演されました。CiRA（京都大学iPS研究所）では10年間で、基礎技術の確立、HLAホモ型のiPS細胞のストック、前臨床試験から臨床試験への前進、患者由来のiPS細胞を利用した治療薬開発を目標としているそうです。近いうちに加齢性黄斑変性に対するiPS細胞を用いた治療の臨床試験が開始されることは最近話題になっていたことと思います。遺伝性希少難病に対する疾患特異的iPS細胞を用いた創薬には、原因遺伝子や責任細胞がわかっていてiPS細胞からの分化誘導系が確立されていることが必要となります。コントロール（対照）細胞については、ゲノム編集技術を利用して突然変異した塩基を正常なものに置換することで作れるそうです。先生はFOP（進行性骨化性線維異形成症）やCINCA症候群（慢性乳児神経皮膚関節炎症候群）などの病態をin vitroで再現し、分子レベルでの解明から創薬のスクリーニングを試みていると話されていました。STAP細胞が医学会に衝撃を走らせている今、参加されていた先生方も再生医療には特に関心をお持ちのようで、質疑応答も行われました。iPS細胞が実際の治療に利用される日も近いと思うと期待が高まりました。

講演の後、場所を移して総会と懇親会が開かれました。新しく支部長になられた神戸市立医療センター中央市民病院院長の北徹先生があいさつされ、物故会員に黙祷を捧げました。再度講演された先生方の紹介があり、続いて支部総会に初めて参加される会員の先生方が紹介されました。今回は3年目、4年目といった若い先生方も多数出席されていました。次に私たち学生から近況報告を行い、たくさんの質問を投げかけていただきました。会計報告の後、懇親会が行われました。参加された先生方は70名程で、同期の先生同士で盛り上がっていたり、福引が行われたり、病院ごとに集まって撮影会が行われたりと、会は終始にぎやかに進みました。先生方は私たち学生にも優しく声をかけてくださり、非常によい刺激を与えてくださいました。そして宴もたけなわとなり、惜しまれながらもお開きとなりました。

最後になりましたが、素晴らしい会に参加させていただいたことに深く感謝の意を申し上げ、総会の報告を終わらせていただきます。

（文責：2回生　高屋龍生）

芝蘭会費納入は自動振替で

平成17年度より芝蘭会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引き落とし」を採用させていただいております。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、会費の二重払いの防止にもつながります。ぜひ、ご利用いただきたくお願い申しあげます。

手続き等については、
芝蘭会事務局
(TEL 075-751-2713)
までお問い合わせください。

【ご注意】

最近、芝蘭会員の方々へ芝蘭会員または京大医学部事務職員の名前をかたって、個人情報（住所、電話番号等）を聞き出そうとする不審な問い合わせの電話があるということを会員の方からご連絡をいただいております。芝蘭会とは全く関係がございませんので、くれぐれもご注意くださいますようお願いいたします。

なお、芝蘭会では会員の方から住所変更等のご連絡がない限り、事務局からはお問い合わせはいたしておりません。ご不審なことがありましたら、芝蘭会事務局までご連絡ください。

芝蘭会　事務局　TEL：075-751-2713
FAX：075-752-4015

人　事　異　動

発令年月日	氏　名		異動内容
H25.12.31	板東　　徹	辞任	呼吸器外科学准教授より 聖路加国際病院呼吸器外科部長へ
H25.12.31	髙橋　　淳	辞任	脳神経外科学講師より 国立循環器病研究センター脳神経外科部長へ
H26.1.1	陳　　豊史	昇任	京大病院呼吸器外科助教より 同講師へ
H26.2.1	中村　和弘	昇任	学術融合教育研究推進センター （生命科学系キャリアパス形成ユニット）講師より 同ユニット准教授へ
H26.2.1	宮川　　文	採用	京大病院臓器移植医療部講師より 次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点（AK） 特定准教授へ

発令年月日	氏　名		異動内容
H26.2.1	岡田　宣宏	採用	カリフォルニア大学博士研究員より メディカルイノベーションセンター（DSK）特定助教へ
H26.2.28	辻川　明孝	辞任	眼科学講師より 香川大学医学部教授へ
H26.3.1	Yossefian Shohabeddin	採用	秋田県立大学准教授より 医学教育推進センター特定教授へ
H26.3.1	大守　伊織	採用	岡山大学助教より 医の倫理委員会事務局特定准教授へ
H26.3.1	國枝　武治	採用	脳神経外科学特定講師より同講師へ

会　員　訃　報　（敬称略）　謹んでご冥福をお祈りいたします。

後藤　寿直	昭和17年薬卒	平成26年1月25日	ご逝去	安本　　裕	昭和24年卒		ご逝去	宮本　包厚	昭和34年卒	平成25年11月16日	ご逝去
高木　謙行	昭和17年薬卒	平成24年10月24日	ご逝去	荻原　一輝	昭和24年専卒	平成26年2月2日	ご逝去	川口　義夫	昭和35年卒	平成26年3月30日	ご逝去
有馬　敬典	昭和19年卒	平成25年11月11日	ご逝去	戸部　隆吉	昭和27年卒	平成26年3月27日	ご逝去	神崎　義雄	昭和37年卒	平成26年1月6日	ご逝去
松田　正策	昭和20年卒	平成25年10月31日	ご逝去	今田　勝美	昭和28年薬卒	平成25年12月12日	ご逝去	伊藤　和彦	昭和38年卒	平成26年2月15日	ご逝去
三橋　　信	昭和20年卒	平成25年11月14日	ご逝去	西村　千昭	昭和28年薬卒	平成25年12月2日	ご逝去	佐藤日出男	昭和38年卒	平成26年2月8日	ご逝去
田畑　為正	昭和20年薬卒	平成26年1月14日	ご逝去	杉田　太一	昭和29年卒	平成25年1月29日	ご逝去	宮本　雅子	昭和44年卒	平成26年2月19日	ご逝去
甲田　英久	昭和22年卒	平成25年12月29日	ご逝去	小柴　孝夫	昭和30年卒	平成26年2月10日	ご逝去	松岡　　出	教室会員 耳鼻科、薬理	平成26年1月26日	ご逝去
福田　　稔	昭和23年卒	平成25年9月14日	ご逝去	飯田　清二	昭和31年卒	平成25年7月7日	ご逝去	引間　啓祐	教室会員 内科1	平成25年12月28日	ご逝去
金森　秀夫	昭和23年専卒	平成25年11月30日	ご逝去	高見　武夫	昭和31年卒	平成25年10月24日	ご逝去	倉田　敏夫	教室会員 耳鼻科	平成25年8月8日	ご逝去
小池　瑛蔵	昭和24年卒	平成26年1月5日	ご逝去	水江日出成	昭和31年卒	平成26年1月21日	ご逝去	伊藤　　篤	教室会員 胸部研	平成25年1月4日	ご逝去
城谷　　均	昭和24年卒	平成26年1月19日	ご逝去	川瀬　満雄	昭和32年卒	平成25年11月25日	ご逝去	藤岡　信子	教室会員 胸部研	平成25年9月25日	ご逝去

芝蘭会報編集委員会
委員長　高折晃史
委　員　斎藤信雄、岩田征良、豊國伸哉、山田圭介、園部　誠、阿部　恵
芝蘭会雑誌部
顧　問　高折晃史
部　員　畑野翔太郎（6回生）
鶴田将史、真辺　諄、森山太陽（以上5回生）
赤埴未宝、大植啓史、小杉大輔、坂本　慧、宮崎規晶（以上4回生）
高屋龍生、西川裕太（以上3回生）
梅本大地、菅原聡真、朴剛史（以上2回生）
芝蘭会事務局
事務局長　山田　均
総務課長　秋山和美
管理課長　浜崎康博

原　稿　募　集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場であります。支部活動、クラス会、会員の著書の紹介（自薦・他薦）及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会で決めさせていただきます。

芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取り扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。
（FAX 075-752-4015）